

地上の星(31) **A.R.ストーン**宣教師



洞爺丸遭難で命を捨てたカナダ人

昭和 29 年 (1954) 9 月 26 日夜、台風第 15 号に襲われた青函連絡船「洞爺丸」は荒れ狂う海の中で木の葉のように翻弄され、やがて沈没した。行方不明者あわせて 1155 人という日本海難史上最大の惨事である。しかし、沈没寸前の船内で、恐怖におののく乗客たちを励まし、慰め、自らつけていた救命胴衣を日本人乗客に譲り、自らは海の波に呑み込まれていった宣教師たちがいた。その一人がアルフレッド・ストーンである。東京で開かれる「キリスト教児童福祉協議会」に参加する途中の遭難であった。ストーンは、長野県にもゆかりが深く、その足跡は広範囲に残っている。昭和の初期、柏原や古間で鍛冶の機械化をすすめ、ルバーブなどの野菜の植付けなど農業への取り組みをしたのはストーンであり、「長野のノルマン」と呼ばれたダニエル・ノルマン宣教師（長野市県町に 32 年在住）のもとでも訓練を受けている。今回は、今まであまり知られることのなかったその生涯にスポットライトを当て、その人となりに迫ります。

記

1. 日時：6月6日（金） 10:30 AM より
2. 場所：ゴスペルホール（電話 026-295-6705）
3. 講師：尾崎富雄（ゴスペルホール代表）

入場無料。どなたでも参加できます。